

日程・会場が変更となりました

TETSUO SUGIYAMA PIANO AND TALK RECITAL 2020

ベートーヴェン生誕250年記念

杉山哲雄

ピアノ&トーク・リサイタル2020

《ベートーヴェンと三人の先駆者》

第1回〈ベートーヴェンとバッハ〉

8月22日(土) 午後2時開演(1:15開場)

J.S.バッハ:平均律ピアノ曲集I巻 ハ長調 BWV846、ニ短調 BWV851
イタリヤ協奏曲 ヘ長調 BWV971
L.v.ベートーヴェン:ソナタ 第1番 ヘ短調 作品2-1
歌曲「君を思う」による6つの変奏曲 ニ長調 WoO.74 (連弾共演:鹿目純子)
ソナタ 第8番 ハ短調 作品13「悲愴」

第2回〈ベートーヴェンとハイdn〉

9月20日(日) 午後2時開演(1:15開場)

J.ハイdn:ソナタ 第35番 ハ長調 Hob.XVI/35
アンダンテと変奏曲 ヘ短調 Hob.XVII/6
L.v.ベートーヴェン:ソナタ 第14番 嬰ハ短調 作品27-2「月光」
創作主題(トルコ行進曲)による6つの変奏曲 ニ長調 作品76
ソナタ 第21番 ハ長調 作品53「ヴァルトシュタイン」

第3回〈ベートーヴェンとモーツァルト〉

10月25日(日) 午後2時開演(1:15開場)

W.A.モーツァルト:デュポールのメヌエットによる9つの変奏曲 ニ長調 K.573
ソナタ 第8番 イ短調 K.310 (300d)
L.v.ベートーヴェン:ディアベッリのワルツによる33の変奏曲 ハ長調 作品120

新型コロナウイルスに関するお客様へのお願い

●ご入場には十分な距離の保持や体調確認等に時間を要します。お時間に余裕をもって御来場下さい●ご入場時の検温で高熱(37.5度以上)の方・症状のある方、感染者が身近にいる場合はご入場を見合わせて頂きます。何卒ご理解下さいませ●会場内ではマスクをご着用下さい●出演者とのご面会はできません

浜離宮朝日ホール (朝日新聞東京本社ビル新館 TEL.03-5541-8710)

全自由席 1回券 一般¥4,000/学生¥3,000

3回通し券(※) 一般¥10,000/学生¥7,000

前売:チケットぴあ 0570-02-9999(Pコード186-029)
CNプレイガイド 0570-08-9990

※3回通し券は新演(03-6222-9513)のみにて受付

後援:  公益社団法人日本演奏連盟/公益財団法人日本ピアノ教育連盟/横浜音楽文化協会

マネジメント・ご予約・お問合せ: **Shin-En** 新演 03-6222-9513 <http://www.shin-en.jp>

ベートーヴェン生誕250年記念

杉山哲雄ピアノ&トーク・リサイタル2020

《ベートーヴェン(1770~1827)と三人の先駆者》

第1回〈ベートーヴェンとバッハ(1685~1750)〉

ベートーヴェンの作品の重要な鍵となる「主題労作」(一つ、あるいは複数の動機によって全曲を統一する技法)は、バッハの作品に多く見られる。平均律ピアノ曲集の前奏曲とフーガにも統一の技法が多く用いられ、12才で平均律を弾きこなししたベートーヴェンが影響を受けたことは当然考えられる。序奏の動機によって複数楽章全体を統一する技法と、ハ短調の色彩が一体化したソナタ「悲愴」により、新たな音楽表現の可能性を切り拓いたが、深い精神性が「苦悩の人」を印象づけることにもなった。

第2回〈ベートーヴェンとハイdn(1732~1809)〉

作曲の師匠としては、ウィーンで正式に師事したハイdnが重要である。交響曲やソナタにおける「動機の対比」は、流麗なモーツァルトを超える大規模な作品の基礎となっている。ベートーヴェンの短調の劇的な作品の出版に関して苦言を呈したとも云われるが、作品2の3曲のソナタが献呈された。壮大なハ長調のソナタ作品53では、ヴァルトシュタイン伯爵の「モーツァルトの精神をハイdnの手から受けとるように」という祝福に対する感謝の気持ちが、後の「神性」にも繋がる表現力を生んでいる。

第3回〈ベートーヴェンとモーツァルト(1756~1791)〉

早くから音楽の才能を発揮したため、神童モーツァルトに並ぶべく育てられ、直接教えることはなかったが、モーツァルトの精神をハイdnから受け取ることがウィーンで学ぶ重要な目的でもあった。調性の表現の可能性や緩徐楽章の旋律構成に、深く影響していると云われている。モーツァルトのオペラ「ドン・ジョヴァンニ」の一節を変奏に含むディアベリ変奏曲は、直接教えることのなかった先駆者の晩年の境地と自らを重ねつつ、フーガによってバッハへの繋がりも暗示しており、自在な展開の中にすべての技法が集約されている。



杉山哲雄 Tetsuo Sugiyama

三重県伊勢市出身。三重県立伊勢高等学校を経て、東京藝術大学器楽科に進む。同大学院修了、1974年クロイツァー賞受賞。1975年9月オーストリア政府給費留学生としてウィーンに留学。1979年ウィーン音楽大学卒業。1980年12月帰国後はリサイタルを中心に演奏活動を行う。オーケストラとの共演も、神奈川フィルハーモニー管弦楽団、名古屋フィルハーモニー管弦楽団、伊勢フィルハーモニー管弦楽団等があり、室内楽やドイツリートの伴奏などにも意欲的に取り組んでいる。1985年バッハ生誕300年記念リサイタルをはじめ、古典調律によるモーツァルトのタペヤ、ベートーヴェンリサイタルを開催。ウィーン古典派の伝統を踏まえた解釈や、シューベルトやシューマンのロマン派の魅力を伝えるプログラムで好評を得ている。また、ショパンの作品における主題の統一やリズムの変容、及びフランス近代音楽の技法にも視点を広げ、指導にも取り入れている。近年はベートーヴェンの作品に焦点を絞り、チャクルスとして展開しており、変奏曲やフーガを含む総合的な形式として完成されたベートーヴェンのソナタを中心に、時代様式を意識した演奏により好評を博し、また、モーツァルト・チャクルスの構想も温めている。コンクールの審査員も数多く務め、後進の指導にも精力的に取り組んでいる。横浜国立大学名誉教授。杉山ムジーク・アカデミー主宰。

連弾共演：鹿目純子 Junko Kanome

東京藝術大学音楽学部器楽科を経て同大学院修了。在学中、第8回日本モーツァルト音楽コンクール第3位入賞。第1回モーツァルト音楽大賞選考会にて優秀賞、名古屋フィルハーモニー管弦楽団と共演。東京文化会館新進音楽家デビューコンサートに出演。大学院修了後、アムステルダム音楽院ポストグラデュエイトコースを卒業し、ホランドミュージックセッション主催によるリサイタル等、オランダ各地で演奏活動を行うほか古楽器の演奏も併せて学ぶ。これまでにピアノを杉山哲雄、谷康子、田辺緑、多美智子、ヴィレム・ブロンズの各氏に師事。チェンバロを小島芳子、フォルテピアノをスタンリー・ホッポランドに師事。帰国後は千葉市を中心に後進の指導や、演奏活動、コンクール審査等を積極的に行う。現在、市原中央高校音楽コース講師。全日本ピアノ指導者協会正会員、日本ピアノ教育連盟会員。



浜離宮朝日ホール

東京都中央区築地5-3-2 TEL.03-5541-8710

ACCESS

- 都営地下鉄大江戸線「築地市場駅」A2出口徒歩3分
 - 東京メトロ日比谷線「築地駅」1・2出口徒歩8分
 - JR(汐留口)・東京メトロ銀座線(1・2出口)・都営浅草線「新橋駅」徒歩15分
- ※ホールに駐車場はございません。